

# INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL  
53

2018

## 高度医療の実践と若手医師の育成

- DOCTOR'S VOICE 01 専門性と汎用性を兼ね備え、先端医療を提供
- DOCTOR'S VOICE 02 リサーチマインドを持つ優れた内科医を育成し、地域医療へ還元
- DOCTOR'S VOICE 03 四国の移植医療の中核を担うセンターを目指して
- DOCTOR'S VOICE 04 愛媛県全体にがん・生殖医療を周知し、患者さんによりよい診療を



高度分娩シミュレータ  
人形を使用した  
トレーニング風景

## 新任教授紹介

## 専門性と汎用性を兼ね備え、先端医療を提供

血液・免疫・感染症内科学講座 教授 竹中克斗

私の研究分野は「同種造血幹細胞移植」です。通常の抗がん剤では治らない病気の治療には有効な手段です。同種造血幹細胞移植は長年実施されてきましたが、近年、移植ドナー不足を補う新しい治療方法が全国で実施されており、注目を集めています。この新しい治療方法を含め、ここ愛媛県でも常に最先端の移植医療を提供していくようになりますが、私の目標です。

5月に教授に就任し、全体をマネジメントする立場になりました。第一線で活躍している先生方が快適に診療や研究にあたれるように職場環境整備を行い、常に先端技術や治療をアップデートしていく環境を作っていくと考えています。また、医育機関として、血液やリウマチ、感染症などの専門医の育成も重要だと考えますが、病気だけでなく、患者さんの家族構成や環境などの社会的背景も勘案し、患者さんを人として診ることができます医師を育てていきたいです。そして、その医師を地域の連携病院に還元し、地域医療の底上げを図って、愛媛県全体の医療を盛り立てていきたいと考えています。



## PROFILE

たけなかかつと◎1991年九州大学医学部卒業、同医学部第一内科入局。1997年岡山大学第二内科助手、2000年トロント小児病院血液腫瘍科で博士研究員、2002年オンタリオガンセンター細胞分子学でポスドクフェローとなり、2015年九州大学病院血液・腫瘍内科助教。2018年5月より現職。

## 新任教授紹介

## リサーチマインドを持つ優れた内科医を育成し、地域医療へ還元

循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講座 教授 山口 修

私は4月に着任しましたが、愛媛県の医療の現況や地域性を理解するため、まず愛媛県下の連携病院を幅広く訪問しました。そこでは必ず「地域の医師不足」の話がありました。この問題に簡単な解決策はなく、地道に活動していくほかありません。学生や若い先生方に、愛媛県でも幅広い知識や先端医療を学べることを周知し、愛媛県の内科医を増やしていくことを考えています。また、就任後、医局スタッフとも詳細な面談を行いました。一人ひとりが具体的なビジョンを持っており、非常に頼もしく思えました。各自のビジョンをサポートし、愛媛県の医療を守り、育てていく考えです。

私はこれまで心不全のメカニズムを研究してきました。心不全はよく聞かれる病名ですが、その原因や薬の有効性等、分からないことが多い病気です。既存の治療法を適切に実施すると同時に、その根底にある細胞の中で起こるメカニズムに焦点を絞って研究をしていきます。また、当院は四国で唯一の植え込み型補助人工心臓の実施施設なので、心臓血管外科と協力して重症心不全の治療の充実を図っていきます。



## PROFILE

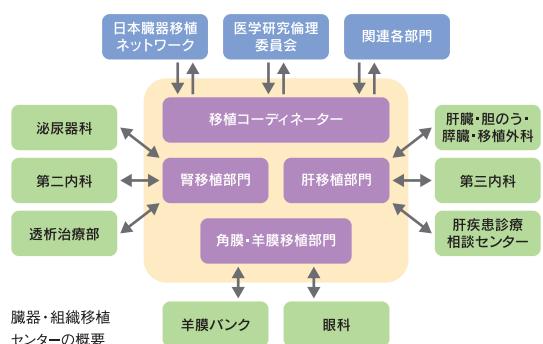
やまぐちおさむ◎1995年大阪大学医学部卒業、医学博士取得。大阪大学医学部附属病院、国立大阪病院、大阪警察病院での臨床研修、大阪大学大学院医学系研究科を経て2018年4月から現職。趣味は読書、サイクリング。

## 臓器・組織移植センターの設置

## 四国の移植医療の中核を担うセンターを目指して

臓器・組織移植センター長 高田泰次

当院では肝臓、腎臓、角膜・羊膜移植を行っていますが、それらは専門となる各診療科で実施しており、横の繋がりはありませんでした。しかし、現在日本では、肝臓・腎臓の同時移植が実施される等、診療科の垣根を越えた移植医療が行われております。当院でも診療科の連携が急務となりました。このことから、患者さんにより良い移植医療を提供するために、臓器・組織移植センターを設立しました。センターを設立したことでの移植医療の窓口が1つになり、患者さんも相談しやすくなりました。今後、ますます増加することが予想される移植医療に対応するため、センターでは、移植コーディネーターの育成および増員を実施していきたいと考えています。



本センターは、今後四国の臓器・組織移植の中核センターとして、ここ数年増加している脳死下臓器提供による移植と、これまでの生体移植を含めた、移植医療の更なる発展に努めていきたいです。

**PROFILE**

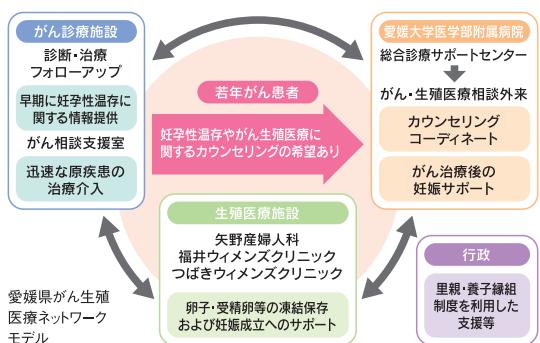
たかだやすつぐ◎1983年京都大学医学部卒業。筑波大学消化器外科、京都大学肝胆脾・移植外科などを経て、2009年愛媛大学肝胆脾・乳腺外科教授就任。2018年4月から現センター長。

## がん生殖医療相談外来の設置

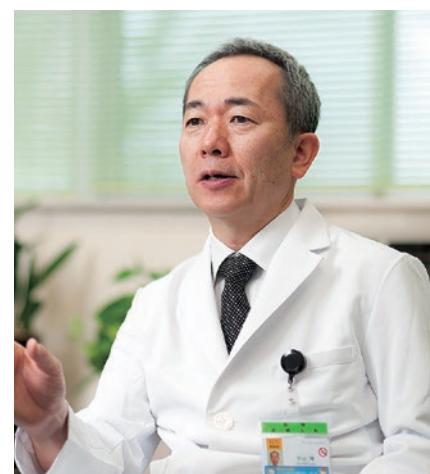
## 愛媛県全体にがん・生殖医療を周知し、患者さんによりよい診療を

産科婦人科学講座 教授 杉山 隆

近年、がん・生殖医療に注目が集まっています。背景として、若いがん患者さんに対して手術や抗がん薬治療、放射線治療を行うことにより治療効果が高くなり、がんサバイバーが増加しています。その一方で、生殖機能が障害を受け、治療後の妊娠が困難となる可能性があげられます。しかしながら、近年の体外受精等の生殖医療の進歩により、将来の妊娠を可能とする道が開かれたわけです。今回、県下のがん・生殖医療の充実を目的にネットワークを構築し、当院にがん生殖医療相談外来を設置しました。本外来設置により、当院がコーディネーターとなり、患者さんにカウンセリングや体外受精を行うクリニックを紹介することで、円滑にがん・生殖医療を行うことが期待



されます。患者及び医療者双方にとって、窓口が明確になったため、相談しやすい環境になったと思います。今後はネットワークの連携を強化し、若いがん患者さんの生殖医療の充実を図りたいと考えています。

**PROFILE**

すぎやまたかし◎1988年関西医科大学卒業。三重大学、東北大学を経て2015年から現職。2018年4月から附属病院副病院長に就任。専門は周産期医学。連携を図る過程で、多くの人と出会えることが楽しみ。

# 愛媛大学医学部附属病院 トピックス

お気軽にご相談ください

## 白衣授与式を実施



平成30年4月26日(木)、医学科5年生121人を対象に白衣授与式を行いました。白衣授与式は、病院実習の資格を得た医学生が、医師を志す者としての自覚を再確認するために実施しています。10人の教授から白衣を受け取った学生らは、臨床実習に臨むにあたり、決意を新たにしていました。また、今年もご家族に参加いただき、白衣姿の学生と一緒に写真を撮る微笑ましい姿が見られました。

学務課 ☎089-960-5175

## 国際基準の医学教育を実施中

本学では、医学教育の質を高めるため、国際基準に照らし合わせた取り組みを随時実施しています。

今年度、国際認証評価の受審を控え、本学医学教育の新カリキュラムは、基礎および臨床実習の充実を図り、従来の座学中心から脱却して、授業で得られた知識が適切に応用できるようにしています。特に、臨床実習においては、今後、医学生の実習期間を、国際基準である72週間以上実施する予定です。

本学では、愛媛に根ざし、世界に発信できる医師の養成のため、「チーム愛媛」で医学教育に取り組んでいきたいと考えています。患者および連携病院の皆さんにおかれましては、ご協力の程よろしくお願ひいたします。

学務課 ☎089-960-5175

睡眠医療センターが  
枕を開発



当院睡眠医療センターと株式会社アンミンピローが、快適な寝心地を実現する枕「SLEEP MEDICAL PILLOW」を開発しました。本商品は、就寝時に快眠が得られる姿勢として最も良いとされている『頭部と体幹のラインが直線になる姿勢』になるよう開発されています。本商品は、株式会社フジのグラン店舗で販売され、今後はインターネットでの販売も計画しています。

総務課企画・広報チーム

☎089-960-5943

## 編集後記

梅雨も明け、夏本番となりました。当院には、夏の暑さに負けない熱い想いを持った新教授が就任しました。また、新センターや新外来、新カリキュラムおよび新ラジオ番組と、新しいことづくめ、当院は熱気に入っています。

さて本号の表紙は、出産シミュレーターを使用した研修の様子です。本学が使用しているシミュレーターは、全国でまだ3施設しか導入していない高性能なもので、49パターンの正常及び異常分娩がプログラミングされており、学生や研修医等のトレーニングに役立っています。また、紙面のとおり、当院はがん・生殖医療にも力を入れており、これからも愛媛県の産婦人科医療を支えていきたいと考えております。

最後になりましたが、このたびの豪雨で被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧を願っております。

広報委員会委員長 高田清式

## FM愛媛で附属病院のラジオ番組がスタート



平成30年7月6日(金) 17:40~、当院の三浦裕正病院長がパーソナリティを務めるラジオ番組「Dr.ミュウミュウの『次の方どうぞ』」が、FM愛媛でスタートしました。

当院は、「患者から学び、患者に還元する病院」

を基本理念に、「愛媛県民から信頼され愛される病院」を目標の一つとして、開院から40年以上にわたって地域に根ざした医療を実践しています。

この番組では、県民の皆様に愛大病院をもっと身近に感じてもらい、大学病院に対するイメージと現実のギャップを少しでも解消するため、

当院の三浦裕正病院長がパーソナリティを務め、大学病院の今を楽しく、分かりやすく紹介します。是非、お聴きください。

放送局: FM愛媛

放送日時: 毎週金曜 17:40~17:55

総務課企画・広報チーム ☎089-960-5943

◎表紙  
出産シミュレーター研修



# 愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454 ☎089-964-5111(代)  
ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>